

プレゼンテーション以前 ～教育内容の最低保障とその標準化を目指して～

陸上自衛隊少年工科学校 第2教育部情報科
情報教官 松下 尚城
(mail:aikonao@hotmail.com)

1 はじめに

情報科の授業がスタートして、今年で6年目になる。この6年間で、生徒がITを利用する機会が増えていったが、ソフトウェアの利用方法が生徒によって異なっていたり、「ただそのソフトウェアを利用しているだけ」という現象が見られた。さらに、科目連携(クロスカリキュラム実施)の際に情報科の教員がソフトウェアに関する教育を生徒に再度実施しなければならないという問題も発生してしまった。

本研究発表では、教員によって細部の教育内容が異なった現状である情報科の教育内容を見直すきっかけとして始めた、学習内容ごとに最低限付与しなければならない項目の洗い出し、およびその検討に関する研究成果を発表する。また、この研究成果を活かした学習内容の標準化に関する実践も、あわせて報告する。

2 スライド作成を例に取った現状の教育の問題点

スライドを作成する場面というのは、主にプレゼンテーションを行う場面であり、「伝えたい情報を伝える」ということが、その目的となる。

この際、「図解」、「グラフ」、「イラスト」等を駆使して視覚情報に訴えるという方法がよく用いられる。この方法は有効な手段であるが、コンセプトが明確でないと「なんとなく使っている」、「なんとなくできた」というようなことになってしまい、学習内容を別の機会を活かすことができなくなってしまう恐れがある(もちろん、回数をこなすことでこの問題は解決できるが、本校では時間の関係で難しい。)

3 テキストベースプレゼンテーション

そこで、本研究発表では「テキストベースプレゼンテーション」(私が勝手に命名)を紹介したい。テキストベースプレゼンテーションはプレゼンテーションにおけるスライド作成の下書き的な存在(アウトライン的なもの)として当初位置づけられていた。

テキストベースプレゼンテーションには、いくつかのルールがある。

- ・スライドをテキストのみで完成させる。
- ・スライドだけでプレゼンテーションの流れがわかるようにする。
- ・スライドの構成を指示されたとおりにする。
- ・趣旨が全体を通じて明確になるようにする。

テキストベースプレゼンテーションはもちろん最良のプレゼンテーションではない。しかし、テキストのみのスライドだけで趣旨を明確に伝えられることは、自分の頭の中の論理性を具現化できるということであり、思いを伝える第一歩であると考えている。

テキストベースプレゼンテーションの細部実施要領の完成度が上がることで、これを生徒は「幹」としてもつことで、少しずつ様々なプレゼンテーションに対応できるようになってきた。

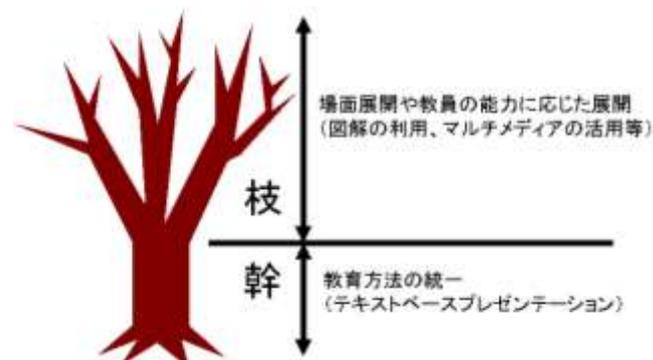


図1 教育内容の幹と枝による分類

平成20年度

神奈川県高等学校教科研究会情報部会研究大会 研究発表

4 テキストベースプレゼンテーションの発展

次に、テキストベースプレゼンテーションを行うために必要な能力の洗い出しと、その育成方法に関する研究及び実践を行った。以下は、現在実施している学習順序である。

- ① 項目分類+段下げ
情報を整理する能力の付与
- ② 体言止め
話し言葉ではない文章の作成経験を積ませる。
- ③ 「項目・説明」法(私が勝手に命名)
伝えたい内容を明確化させる。
- ④ 表現物の構築
様々なプレゼンテーションの構成方法を学ぶ。
- ⑤ テキストベースプレゼンテーションの作成



図2 テキストベースプレゼンテーションの完成例

5 今後の展望

今後の情報科は、今以上にあらゆる科目との連携や科目としての深化に関するニーズがより強まると考えられる。情報科における教育内容なり水準を、担保できるということが、より一層大切になる。

よって、本研究で述べた「幹」という概念である教育内容の最低限保障の模索はなお一層重要になるものと考えている。

本研究発表はプレゼンテーションに関する実践を取り扱ったが、今後は、情報科のその他の学習項目においても同様の研究が必要であるということを考えている。

6 まとめ

本研究ではスライドの作成を例に取った教育内容の統一化にむけた研究であった。今後は他の分野においても同様の研究を行うとともに、様々な方との連携によってさらにこのような研究を普及させたいと考えている。

このような研究は、最終的には教育のマニュアル化に向けた動きと考えられてしまうかもしれない。事実、私は自分の教育する科目については補助資料(授業中は教科書と呼んでいる)を作成している。

しかし、その補助資料はそれぞれの分野における基本的な学習項目を押さえるのみとしているので、私の試みが教育内容をすべてマニュアル化してしまうことはないと考えている。

また、基本的な学習内容が一致していると、他の教員の先進的な学習方法を取り入れることも比較的容易となるという利点が生まれ、このことが教科全体のレベルを上げることにもなっている。

7 最後に

情報科の教員になって6年目となって、自分の今までの取り組みを振り返ってみました。また、昨年からは本研究発表の内容を活かした発展的な学習活動として、「考えさせる教育」をテーマとした研究をしており、まだまだこの科目の持つ可能性は広がるばかりだと感じています。

今後、様々な方からの意見をいただきながら、成長したいと考えています。